



セカンドハーベスト名古屋

# SECOND HARVEST NAGOYA PRESS

2021.7月号

NO.16

発行元 認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋

〒462-0831 愛知県名古屋市北区城東町七丁目148番地

TEL:052-913-6280 FAX:052-913-6281

E-mail:info@2h-nagoya.org URL:https://www.2h-nagoya.org/

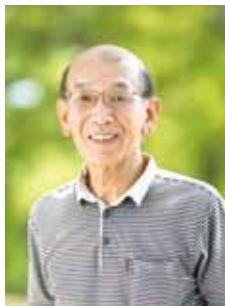
編集/印刷 橋本写植

## 特集 社会的養護の施設との連携



本号会報誌は東海ろうきんの助成を受け、作成しています

### 新理事長挨拶



3月6日の通常総会にて理事長に就任しました前川です。これからは一人一人のボランティアが共同運営するNPOとなります。2HNは、2015年から始まった「行政と連携した個人支援事業」の拡大とともに、必要な食品の収集先の拡大や支援するパートナー団体数の拡大もあって、一気に事業規模が大きくなりました。それに伴いボランティアの人数、事務局の業務量も大きく増えています。

フードバンクは無償性の原則の下、食品の寄贈やお金の寄付をして下さる方々の信頼を得て活動していく必要があります。運営資金は善意の寄付と各種助成金に依存せざるを得ません。すなわち、安易に固定費を増やすずに運営する仕組みを構築する必要があると考えています。そのため、事務局は当面1名増員の3名体制で乗り切りたいと思っています。

#### ■ 担当理事制について

そこで考えたのが、担当理事制とボランティアスタッフ制です。ベテランボランティアである理事の皆さんには担当を明確にし、責任を持ってその部門の業務を遂行していただくことにしました。

具体的には松岡理事には食品収集と保管を、林理事にはパートナー団体支援(支える会を含む)を、鈴木(千)

理事には個人支援(社会的養護等も含む)を担当して頂くこととしました。

ボランティアスタッフ制というのは、一部のベテランボランティアに事務局業務の一部を担当してもらうことです。会計業務や寄付金受付業務、月次実績集計業務等をお願いしており、これを当面継続してもらう所存です。

#### ■ 曜日・業務別新世話人制について



更にボランティアスタッフを広げるべく、曜日別に世話を固定する曜日・業務別新世話人制の導入を考えました。目的は、事務局に頼らずとも個々のボランティアが日々の活動を自立的に行えるようにすることです。この新世話人制は5月から試行しています。種々問題が出ると思いますが、更に良い仕組みになるよう改善していきたいと考えています。

コロナ禍の治まらない中、食品支援要請のお声はますます高まり、今号の特集「社会的養護の施設と連携をした個人支援」もその一つとなります。新体制へのスムーズな移行と共に、これらの活動に皆様の温かいご支援と会員の皆様、ボランティアの皆様のご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

理事長 前川行弘

#### CONTENTS

- 新理事長挨拶……………p.1 社会的養護の施設との連携…p.2~3  
名古屋グランバスが2HNとフードドライブを実施…p.4

# 社会的養護の子供達へ。新しい支援のかたち

私たちは2017年から母子生活支援施設や児童養護施設などと連携し、施設を退所した母子家庭や子どもたちへ毎月1回、お米5kg とレトルト食品、調味料、お菓子などを詰め合わせた食品パック約80箱を届けています。この食品支援は食費の削減、精神的な安定等だけでなく、食品送付をきっかけとして、困った時に気軽に施設職

員に相談できる関係性の維持に役立っています。

今回は2つの新しい連携先である、困窮世帯の子どもたちに学習支援を行っているささしまサポートセンター（以下、SSC）と、日本福祉大学学生課との連携について報告します。

## ささしまサポートセンターとの連携

SSCで学習支援『Smyle』と居場所支援『まいまい』を運営されている伊藤千津さんにお話を伺いました。



### Q.SSCの子供支援についてお話を聞かせ下さい。

学習支援『Smyle』は、2013年生活保護世帯の子供達を対象とした「中学生の学習支援モデル事業」から始まり、現在は生活保護、ひとり親世帯の中1から高3までを対象とした学習支援を週2日18時から20時まで行っています。ここでは学習サポートと呼ばれるボランティアの大学生が子供達に勉強を教えてています。

居場所支援『まいまい』は、2019年から名古屋市の「ひとり親家庭の子供の居場所づくり事業」の一環として始まり、小5から中3の子供達のために「絵画教室」や「月一ご飯会」「お餅つき」などのプログラムを用意して、子供達と一緒に楽しい体験の場と安心して過ごせる時間を作っています。

### Q.伊藤さんの目指す支援とは？

『親子丸ごと支援』です。子供支援と言うと、子供との関わりが大事だと思われがちですが、その下支えとなるのが保護者との繋がりです。保護者から信頼を得ることが大事だと思います。まず事務連絡から始まり、子供達の情報を収集します。顔を合わせる回数が増え、関係性ができると保護者の方から相談をしてくれる様になります。親も子供をきっかけにして、本当は色々な事を相談したいということが見えてきます。

### Q.今回2HNの食品パックを利用する事になったきっかけは？

これまで定期的にフードバンドリー※を開催していましたが、休みなく働くひとり親は参加できない方も多くいらっしゃいます。その様な家庭のために何とか食料支援ができないかと思い2HNへ相談をしました。

困窮度の高い家庭やバンドリーに参加できない家庭約10家族へ毎月食品パックを送って頂ける様になりました。これまで忙しくてなかなか連絡を取れなかつた保護者とも、食品パックの利用にあたり事前にお話しを聞かせて欲しいと伝えると色々と話してくれるようになりました。



コロナ禍でこれまでギリギリの生活をしてきたひとり親家庭などはさらに大変な生活を強いられています。この先いつ、元の生活に戻れるか分からぬ状況です。まだまだ支援を必要としている家族が沢山います。一日も早く東海3県全体に支援を広げて行く事が私たち2HNに課せられた課題です。

### 【食品パックを受け取った家族からの感想】

●『高校生男子2人なので、食品を送って頂き本当に助かっています。』



●『子供と箱を開けるたびにワクワクしながらとても笑顔になります。』

●『お惣菜など子供のお弁当にも使って助かります。お菓子などのおやつも子供達が大変喜んでおります』

※フードバンドリー

生活に困っている人に食品を無償で提供する活動。食品を「配る」に特化した活動。バンドリーは食品を備える貯蔵庫の意。

## 団体概要

ささしまサポートセンター  
名古屋市中村区靖国町 1-94  
<https://www.sasashima.info/>



## 日本福祉大学との連携

4月22日、知多半島に向けて2HNの軽バンが走り出しました。行き先は美浜町にある日本福祉大学。日本福祉大学には児童養護施設を出た学生さんもたくさん在籍しており、その学生さんたちへの食料支援がはじまりました。きっかけは1月21日の中日新聞です。児童養護施設を出た学生さんがコロナ禍で大変苦労している記事が掲載されました。この学生さんが日本福祉大学の滝澤ジェロムさんです。幸いにも本人と連絡が取れ、施設を出た若者たちについて話を聞くことができました。

日本福祉大学には施設出身の学生さんがたくさん在籍していることがわかり、彼らへ食料支援ができないか?ということで滝澤さんから大学に取り次いでもらい、大学とセカンドハーベスト名古屋との連携が実現しました。

大学から施設出身の学生へ声をかけてもらい、具体的な支援方法などを検討しました。今回は食品パックを送付するのではなく、人数分の食品を2HNのボランティアが直接届けることで、お豆腐などの冷蔵品やお惣菜などの冷凍食品も渡せるようになりました。何より直接学生さんの顔を見て渡せることがうれしいのです。

大学内にはコロナ以前、施設出身の学生たちが定期的に食事会をしていたサロンのような部屋があり、そこに食品を運び込みます。食品の受け取りをきっかけに、他の施設出身の学生と出会い、大学の職員さんとも知り合え、居場所づくりとしても機能しそうです。

施設を出た若者たちは望むと望まないに関わらず18



歳にして自立を求められます。公的な補助もありますがそれだけでは足りないのが現状です。

衣食住すべてを自分でまかない、問題が起きても自分で解決しなければなりません。頼るべき人や場所が圧倒的に少ないので生活は大変厳しいものです。生活していくためにアルバイトは欠かせないので、コロナ禍で仕事が無く、食べるのに苦労することも多いそうです。

最近は給付型の奨学生も増えて学費そのものの負担が減ったようにも見えますが、成績が落ちると奨学生は打ち切りとなり、退学を余儀なくされる学生もいるそうです。自分で選んだ道ですが、頼るべき親や親戚がない20歳前後の若者には過酷な現実です。

生活するためのアルバイト等で時間を取られ、そのうえでの勉強時間の確保と、求められる成績に耐え切れない学生に対し、自己責任と片付けるのはあまりにも残酷です。ケガも病気も出来ません。二人に一人が大学に行く時代に、施設出身者の進学率は14.0%。その中の16.5%が中途退学をしているのが現状です。

今回の連携のきっかけとなった滝澤さんは、小学校4年で自立への道を選びました。そして子供の声が届くように10年先を変えたいと、当事者から援助者への進路を歩んでいます。

このような若者たちに頑張れと言うのではなく、フードバンクとして出来る事を実行し、その現実を皆様にお伝えする。それによって笑顔が増えることが何より大事だと思っています。

最終回コロナ禍で多くの施設出身者が「家出」や「自殺」などと報道されたときに、2HNは月刊料金を支え、スーパーで購入した商品を購入する「フードバンク」品などと荷物を貯め込んだりと支援を始めた。ワードパンクの大根も活用してきました。

### フードバンク 善意広がる



コロナ禍で収入減の学生に届ける



名古屋のNPOが大学を提供



フードバンクボート

5月13日付 中日新聞朝刊より

## 寄付のお願い

今回ご紹介した社会的養護の施設を退所した方々への支援事業は、フードバンク活動と同様に個人・法人のみなさまからの寄付や助成金を活用し行っています。1万円のご寄付で母子家庭や子ども4世帯へ食品の詰合せ(単身世帯の場合2~3週間分の食品)を届けられます。みなさまのご支援何卒宜しくお願ひ致します。

\*2HNは名古屋市の認定NPO法人で、2HNへの寄付は所得税の寄附金控除の対象となります。

### 銀行振込

三菱 UFJ 銀行 栄町支店 普通口座 0015287

特定非営利活動法人 セカンドハーベスト名古屋

※領収書が必要な方は、info@2h-nagoya.orgまでご連絡ください。

### クレジットカード

単発での寄付だけではなく、毎月の継続寄付メニューをご用意しております。

■ 1,000円/月 ■ 3,000円/月 ■ 5,000円/月 ■ 10,000円/月

セカンドハーベスト名古屋 寄付



## 名古屋グランパスが2HNと連携し、フードドライブを実施くださいました！

4/29(祝)豊田スタジアムでの対川崎フロンターレ戦。名古屋グランパスは愛知県母子寡婦福祉連合会と私共セカンドハーベスト名古屋と連携し、コロナ禍で生活に苦しむひとり親世帯への支援のため、フードドライブを実施下さいました。

名古屋グランパスは愛知県母子寡婦福祉連合会と私共セカンドハーベスト名古屋と連携し、コロナ禍で生活に苦しむひとり親世帯への支援のため、フードドライブを実施下さいました。当日はあいにくの雨模様。ですがそこは頂上決戦！楽しみにしていたサッカー観戦とあってサポーターの皆さんにはワクワクと笑顔が満開です！

選手やスタッフの皆様はもとより試合開始前の特設ブースには、観戦に来られた60組ほどの皆様から温かいお気持ちが寄せられました。

「HPで見ました。フードバンクは知っていたけどなかなかきっかけが無くて。このようにグランパスさんなど身近でやって頂けると「ちょっとついでに」と気軽に参加しやすいですね。良いことなのでまた機会ありましたら喜んで協力させて頂きます。」ととても温かいお言葉も。大村知事自らご自宅から食品をお持ち頂くなど嬉しいサプライズもありました。個人での寄付ではある程度

まとめたものをと気後れされる方もいらっしゃり、缶詰ひとつでも大丈夫！とそんなフットワークの軽さもフードドライブの持つ魅力のひとつかも知れません。

今回、企画下さいました名古屋グランパス高橋様、鈴木様は「やはり事前の告知がすごく大切だと感じま



した。そもそも私共も取組みを強化している「食品口ス」に関することもサッカーファンだけの課題ではありません。今回のようにグランパスからファンに向かって、限られた層への一方向の告知ではなく、例えば行政のフードドライブの取組みを通じた事前告知を頂くなど、そのルートを工夫するだけでも広く周知に繋がる様にも思います。」とおっしゃって下さいました。



子供達との繋がりを大切にし、各種サッカー教室やクラブ専属の栄養士が学校での食育の講習を行うなど、一企業としての社会貢献活動にも力を注がれている名古屋グランパス。今回のような今日一日の取組みだけに留まらず、子供達に憧れられる存在だからこそ広く社会を醸成し、未来を形作ってゆく責任あるお立場を感じさせて頂きました。「ひとつも集まらなかつたらどうしようとしても心配しましたが、グランパスをきっかけにこのような活動を知って頂き、ひとりでも多くの子供達が笑顔になって下されば。」集まった86kgの食品は愛知県母子寡婦福祉連合会を通じ、ひとり親世帯の子供達に役立てて頂きます。



贈呈式にはグランパコちゃんも来て下さいました。可愛い！

### 団体概要

**名古屋グランパス**  
<https://nagoya-grampus.jp/>

**HP 内、SDGs ニュース →**  
<https://nagoya-grampus.jp/news/sdgs/>



### フードドライブを開催されませんか？

今回、実施いただきました「フードドライブ」は一般の方による誰にでも気軽に参加できるボランティア活動です。組織やグループで何か社会のためにやりたいね！そんな時にフードドライブはいかがでしょうか？職場の皆さんや普段集まるグループで、学生やPTAの皆さんも。立派なことはできないけれど、ほんの少し誰かのために。

詳しくはHP、またはお気軽にお問い合わせ下さいませ。

ぜひ、一緒に！

